

県内復興・経済日誌（2016年4月）

1日

《「全国植樹祭」成功へ、県庁内に推進室新設》

県は、平成30年に南相馬市原町区^{しどけ}で開かれる第69回全国植樹祭の推進体制を強化するため、県庁内に「全国植樹祭推進室」を新設した。基本計画の策定や式典会場の整備など、植樹祭の成功へ準備を本格化させる。本年度は基本計画策定のほか、開催テーマやシンボルマークを選定する。県内の小学校で苗木を育ててもらい「苗木のスクールステイ」などを通し、森林保全の意識醸成などにも取り組む。

2日

《アフターDC、オープニングセレモニー》

福島県観光の魅力を発信する大型観光企画アフターDC（デスティネーションキャンペーン）、『「福が満開、福のしま。」福島県観光キャンペーン2016』のオープニングセレモニーが福島市のJR福島駅で行われた。内堀知事が「福島を笑顔で満開にしよう」とあいさつ、関係者がくす玉を割って開幕を祝った。特別列車の出発式では、関係者らがカフェ列車「フルーティアふくしま」を見送った。特別企画を中心に6月30日まで各地で多彩な取り組みが展開される。

4日

《県内初の水素ステーション、来春めどに郡山市が整備》

郡山市は、再生可能エネルギーを活用して製造した水素の燃料電池車（FCV）への供給を行う「水素ステーション」整備事業が環境省の補助事業に採択された、と発表した。本年度末から来春をめどに同市市役所敷地に整備する予定で、FCVの普及、省エネの推進を図る。同ステーションでの1日当たり水素製造量は約1.5キロで、一般的なFCVで約150キロの走行ができる。

《福島県立医科大学に周産期医療拠点開所》

福島県立医科大学の周産期医療拠点「ふくしま子ども・女性医療支援センター」が同大学の先端臨床研究センターの2階に開所した。同支援センターは全国から産婦人科医や小児科医を招き、県内の拠点病院として医師派遣などを行う。

5日

《「とうほう証券」業務を開始》

東邦銀行が100%出資する証券子会社「とうほう証券」が営業を開始し、福島市の同行本店内に開店した福島支店で開業セレモニーが行われた。東北・北海道で初の地方銀行系証券子会社で、東邦銀行との連携により、多様化する顧客の資産運用ニーズに応える。

10日

《「いわきサンシャイン博」開幕》

いわき市制50周年記念事業「いわきサンシャイン博」が、いわき市の21世紀の森公園で開幕した。いわきサンシャイン博は市内を13エリアに分け、観光資源や既存のイベントなどを結び付け、年間を通して多彩な催しを繰り広げる。観光客に東日本大震災で甚大な被害を受けた同市の魅力を発信し、市民が地域資源を再発見して復興への機運を高めるきっかけとする。

18日

《「道の駅つちゆ」に小型風力発電システム完成》

福島市松川町の「道の駅つちゆ」に設置された小型風力発電システム「ふくのかぜ」の起動式が、現地で行われた。1年間の実証試験を経て事業化を目指す。同システムは高さ9メートル、幅と奥行きは6メートルで、3枚翼の風車を縦に2組配置した。北芝電機株式会社（福島市）などをつくる「ふくしま発小型風力発電システム事業化コンソーシアム」が製作し、運用を行う。

《「とみおか診療所」起工、10月1日診療開始へ》

富岡町は、「町立とみおか診療所」の起工式を同町小浜字中央の現地にて行った。同診療所は、診療を10月1日に始める。同町は来年4月の帰還開始を目指しており、地域の医療体制を整え、帰町を望む住民の不安解消につなげる。診療科目は内科で、主に健康診断や風邪などの初期診療に対応する。

19日

《県内3社最高金賞、「ワイングラスでおいしい日本酒アワード」》

「ワイングラスでおいしい日本酒アワード2016」のスパークリングSAKE部門で、人気酒造（二本松市）の「Rice Magic 人気ースパークリングレッド」、大吟醸部門で末廣酒造（会津若松市）の「純米大吟醸ゆめのかおり」と奥の松酒造（二本松市）の「奥の松 純米大吟醸」が、それぞれ最高金賞に輝いた。東京都港区のアカデミーヒルズで表彰式が行われた。今回は252歳元から648点の応募があり、最高金賞32点、金賞165点が選出された。

20日

《相馬市・松川浦で震災後初めてのアサリ漁》

相馬双葉漁業協同組合は、相馬市の松川浦で東日本大震災以降初めてアサリの試験操業を行い、漁業者が6年ぶりに相馬産アサリを水揚げした。8月まで週1回出漁し、1回当たり300キロを上限に漁を行う。放射性物質の濃度を調べた結果、全ての検体が検出限界値未満だった。

《ロボット産業拠点は南相馬市、ドローン離着陸場は浪江町に決定》

国と県が共同で進める福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想で、県はロボット産業の拠点施設「ロボットテストフィールド」と国際産学官共同利用施設を南相馬市原町区、テストフィールドに付随する小型無人機（ドローン）離着陸訓練場を浪江町に整備する。平成28年度内の着工を目指す。県庁で開いた復興推進本部会議で決定した。

21日

《東邦銀行檜葉支店、5年ぶり営業再開》

東邦銀行は、原発事故の影響で営業を休止し

ていた檜葉支店（檜葉町）を約5年ぶりに営業再開した。同支店は、原発事故で休業した同行相双地区6支店の中で最初の再開となった。新規立地や事業再開を望む企業、住宅再建を検討する町民向けに幅広いサービスを復活することで地域経済の再生と住民帰還を後押しする。

《新型特急を来春導入、東武鉄道（浅草－会津田島駅間）》

東武鉄道は、新型特急車両「500系」を来春導入し、東京都内の浅草駅から南会津町の会津鉄道会津田島駅まで直通で乗り入れると発表した。従来の快速と比べ快適性が向上し、南会津地方の観光誘客につながると期待されている。3両単位8編成を導入する予定。

22日

《飯館村、「いいたてまでいな太陽光発電所」完成》

飯館村などが出資する出力10メガワットの大規模太陽光発電施設「いいたてまでいな太陽光発電所」の落成式が行われた。居住制限区域の飯館^{いいとい}行政区にあった同村所有の牧草地約14ヘクタールに、総工費約35億円で建設した。同村は20年間で土地の借地料、配当金など約12億円の収入を見込んでおり、復興施策の財源とする。

25日

《「会津の三十三観音めぐり」「安積開拓事業」、県内初の日本遺産認定》

文化庁は、有形、無形の文化財をテーマでまとめ、地域の魅力を発信する平成28年度の「日本遺産」に、福島県から「会津の三十三観音めぐり」（会津地方17市町村申請）と、安積開拓・安積疏水事業に関する「未来を拓いた『一本の水路』」（郡山市・猪苗代町申請）の2件を認定した。県内の認定は初めてとなる。各市町村は東日本大震災と原発事故発生以降、落ち込みが続く観光客の増加を目指す。

27日

《東邦銀行米沢支店が開店》

東邦銀行は、山形県米沢市徳町に同県唯一の営業拠点となる米沢支店を新設した。本県避難者向けの金融サービス拡充と東北中央道の開通による本県と山形県の経済活性化に貢献しようと開設した。